

第5回 多文化子育てサークル@知立市 報告

愛知県多文化共生推進室では今年度、知立市と豊田市の2カ所で「多文化子育てサークル」を実施しています。知立市では「NPO 法人 みらい」、豊田市では「NPO 法人 トルシーダ」事業を受託し、実施しています。

11月25日(土)、知立市にて第5回目のサークルが開催され、前回に引き続きたくさん親子に参加いただくことができました。また、ネパールやベトナムなど、新たな国籍の方々にも参加していただきました。

サークルでは、まず、御自身も4ヶ月の赤ちゃんを子育て中の先生からベビーマッサージを習いました。親子のコミュニケーションとしてのベビーマッサージの大切さについても御指導いただきながら、参加者の方たちはとてもリラックスした様子で親子の触れあいを楽しんでいました。

ベビーマッサージの後、保護者の方から、ブラジルの歌や遊びなどの出し物がありました。出し物をしてくださったお母さんは、この事業が始まる前から「みらい Jr.」に参加してこられたそうですが、最近は少しずつ活動の担い手にもなりつつあるなど、みらいとの関わり方が変わってきているそうです。本サークルで毎回通訳をしてくださる方も、初めは参加者としてみらいの活動に参加されていましたが、日本語がとてもお上手だということで、通訳としての参加が始まったとのことでした。トルシーダでも同じように、外国人のお母さんたちが通訳として活躍されています。さらに、今回のサークルでは、もともとみらいの学習支援の対象だった若者たちが、子どもたちの見守り役として参加していました。初めはサポート対象だった方たちが、立場や場面が変わればサポートする側として活躍できる可能性があるのだということを改めて実感させられる機会となりました。

また、もうひとつ印象的だったのは、ブラジル人のお母さんが母国の遊びの出し物をしていたときの、他のブラジル人の方たちの嬉しそうな表情でした。自分の国の料理や文化を紹介するとき、外国人の方たちは誇らしげで、母国を離れて日本で生活しながらも自分のルーツに強い誇りを持っていらっしゃるのだと、胸が熱くなる思いでした。

さらに、今回のサークルでは、子どもの言葉の育て方について、過去に知立東小学校で教鞭をとっていた先生がお話くださり、“日本人女性がオーストラリア人男性に嫁いで移住する”という具体的な事例を挙げながら、例えば外国に暮らしていても親が一番得意な言葉で育てる事で、将来的に言語の獲得がスムーズになったり、親子のコミュニケーションが円滑になるということを参加者たちに伝えてくださいました。言語習得における「読書」の大切さにも触れ、乳幼児期に絵本を読み聞かせることの重要性についてもやさしい言葉でわかりやすく伝えてくださいました。参加されていた保護者の中には、先生がお話をする前から、こういった子どもの言葉の育て方について知っている人もいて、昨年度から発展的に実施している本事業の成果を感じる機会となりました。昨年度の「子育て外国人の日本語モデル促進事業」も今年度の「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」も、その大きな目的のひとつに、外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイントを外国人保護者に伝え、子どもの言葉について考える機会としていただくことがあります。始まったばかりの事業ですが、このポイントをより多くの支援者や保護者に伝えていけるよう、普及に取り組んで参りたいと思っております。皆様の御理解と御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、次回のサークルは豊田市で1月20日(土) 14:00~16:00、知立市で1月27日(土) 10:30~13:00に開催します。ひと組でも多くの外国人親子に参加いただければと思っておりますので、周りにそういった方がおられる方は、ぜひとも周知に御協力ください。

詳細、チラシについては、以下のウェブサイトでご確認ください。

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/kosodate-circle.html>



